

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

5 英語

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率=得点計(%) (人数×配点)	
		数	率(%)	数	率(%)	数	率(%)	数	率(%)		
1	No. 1	2	155	51.0	0	0.0	149	49.0	0	0.0	51.0
	No. 2	2	163	53.6	0	0.0	141	46.4	0	0.0	53.6
	No. 3	2	238	78.3	0	0.0	66	21.7	0	0.0	78.3
	No. 4	2	178	58.6	0	0.0	126	41.4	0	0.0	58.6
	No. 5	2	160	52.6	0	0.0	144	47.4	0	0.0	52.6
	No. 6 (1)	3	211	69.4	0	0.0	93	30.6	0	0.0	69.4
	No. 6 (2)	3	144	47.4	0	0.0	160	52.6	0	0.0	47.4
	No. 6 (3)	3	67	22.0	0	0.0	237	78.0	0	0.0	22.0
	No. 7 (1)	3	121	39.8	36	11.8	102	33.6	45	14.8	46.4
	No. 7 (2)	3	111	36.5	12	3.9	101	33.2	80	26.3	38.6
No. 7 (3)	3	62	20.4	64	21.1	126	41.4	52	17.1	32.7	
2	A	3	127	41.8	29	9.5	131	43.1	17	5.6	47.9
	B	3	237	78.0	2	0.7	46	15.1	19	6.3	78.4
	C	3	218	71.7	12	3.9	49	16.1	25	8.2	74.3
	D	3	122	40.1	85	28.0	79	26.0	18	5.9	58.1
3	問1	4	136	44.7	3	1.0	153	50.3	12	3.9	45.4
	問2	3	142	46.7	0	0.0	157	51.6	5	1.6	46.7
	問3	3	153	50.3	0	0.0	151	49.7	0	0.0	50.3
	問4	4	158	52.0	34	11.2	51	16.8	61	20.1	59.3
	問5	4	152	50.0	0	0.0	151	49.7	1	0.3	50.0
4	問1	3	242	79.6	0	0.0	62	20.4	0	0.0	79.6
	問2	4	202	66.4	0	0.0	102	33.6	0	0.0	66.4
	問3	4	147	48.4	35	11.5	86	28.3	36	11.8	54.9
	問4	4	31	10.2	6	2.0	248	81.6	19	6.3	11.6
	問5	4	135	44.4	0	0.0	164	53.9	5	1.6	44.4
	問6	3	121	39.8	41	13.5	140	46.1	2	0.7	44.3
	問7	4	19	6.3	133	43.8	44	14.5	108	35.5	26.3
	問8	4	30	9.9	64	21.1	129	42.4	81	26.6	22.0
5	問1	3	43	14.1	0	0.0	229	75.3	32	10.5	14.1
	問2	3	212	69.7	0	0.0	88	28.9	4	1.3	69.7
	問3	6	34	11.2	189	62.2	42	13.8	39	12.8	43.1

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

No. 1～3 博物館への行き方、昨日の友人の行動、新しい机の置き場所を決める場面等、日常的な場面の会話を聞いて、絵の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 4、5 水を渡す場面や、駅への道を尋ねられる場面といった、日常生活における「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

No. 6 新しく開店した菓子店、Sweet Saitamaについての説明を英語でおこなっている。その説明を聞き取り、内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 7 学校新聞の取材でMihoがMr. Fordにインタビューをしている。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

2 中学校のALTへの手紙を英語で作成することを想定し、日本語のメモをもとに、空欄にあてはまる語をそれぞれ書き、英語の手紙を完成させる。

3 中学生のToshiyaは、昨年小学生になった妹に自転車の乗り方を教えてくれるよう頼まれる。その翌日、Toshiyaは、かつて自分が練習に使った古い自転車で妹が練習できるように、その自転車を車庫から出して来る。週末、Toshiyaは妹の練習を手伝う。妹が熱心に練習したので、Toshiyaも辛抱強く妹を助ける。一週間後、妹は一人で自転車に乗れるようになる。妹もToshiyaもとても喜び、来週には新しい自転車を妹と買いに行くつもりだ。この英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る。

4 Haruka、イギリス (the UK) に住むPhilとALTのMr. Belleの会話と発表である。日本と外国の生活や文化の違いについての複数のまとまりのある英文を読み、あらすじや大切な部分を把握し、場面に応じて英語で適切に表現する。

5 オーストラリアに住む友人の父親の旅行についての英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る。また、将来海外に行くならどこに行きたいかについて、2つの条件に従って、3文以上の英語で書く。
〔条件〕①として、1文目はどこに行きたいかということを書き、〔条件〕②として、2文目以降は具体的にそこでどのようなことをしたいかを2文以上で書くように指示されている。

(3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

No. 1 会話を聞いて、Mary がどのように博物館への行ったかを表す絵を選ぶ問題である。会話では、“But I went there by bike.”と言っているので正答はDである。

No. 2 会話を聞いて、Kevin が昨日何をしていたかを選ぶ問題である。“He was practicing soccer.”と言っていることから、正答はBである。会話全体をとらえたうえで、soccer や baseball 等の情報が何を示しているかを整理して聞き取ることで正答を導くことができる。

No. 3 会話を聞いて、新しい机を部屋のどこに置くかを答える問題である。“in the corner by the window”と“by the plant”と述べているので、正答はBである。

No. 4 帰宅した Peter に彼の母親が水を渡す場面で、彼の母親が Peter に何と言うかを問う問題である。「どうぞ」をあらわすAが正答である。

No. 5 Emi が女性に駅までの道を尋ねられる場面である。Emi も駅に向かう途中であり、Emi は女性を連れていってあげようと思っていることから、正答はCである。状況に応じて適切な表現を選択することが大切である。

No. 6 新しく開店した a candy shop である Sweet Saitama についての話を聞き取り、英語の質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。

(1) 質問は「the new candy shop はどこにあるのか」というものである。“A new candy shop, Sweet Saitama, just opened yesterday on the shopping street near Keyaki Station.”から、正答はAである。何を問われているかを理解することで、正答を導くことができる。

(2) 質問は「the special opening event は何日間か」というものである。“opened yesterday”, “a lot of people are at the shop today”, “This event finishes tomorrow.”と言っているので、正答はCである。

(3) 質問は「the new candy shop について正しいものはどれか」というものである。“The shop is open from Wednesday to Sunday,”と話していることから、正答はDである。メモを取る等して、情報を整理しながら聞く練習をすることで、必要な情報をとらえることができると考えられる。

No. 7 Miho と Mr. Ford の会話を聞き取り、英語の質問に対する答えとなる英文を完成させる問題である。

(1) 質問は「Mr. Ford はどんなときに幸せか」というものである。Mr. Ford が “I’m happy when students talk to me in English.”と言っているので、正答は talk to となる。

(2) 質問は「Mr. Ford は、日本でバードウォッチングを楽しむのにどこによく行くか」というも

のである。Mr. Ford が “I often go bird watching at the lake near my house.” と言っているの、正答は lake となる。

- (3) 質問は「Mr. Ford は、中学生のときに何になりたかったのか」というものである。Mr. Ford が “Well, I wanted to be a doctor, then.” と言っている。この then は直前に Miho が質問している “when you were a junior high school student?” を指しており、正答は a doctor となる。

「聞くこと」の学習においては、No. 1 のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れていくことが重要である。No. 4 や No. 5 では、特定の場面での表現を正確に理解することが大切である。No. 6 や No. 7 のようなまとまりのある英語では、概要や要点を正確に把握するために、メモを取る等の工夫をして、必要な情報を聞き取る力を身に付けたい。

- 2 身近な場面に関する英文を完成させることを通じて、基本的な語の使い方や綴りが定着しているかを見ようとしたものである。

A 「科学」 science の綴りを問う問題である。無答は少なかったが、sience とし、c を抜かしてしまう傾向が多くみられた。サイエンスという音からローマ字書きもみられた。身近な教科の語彙について、正確に書くことのできる力を身に付けたい。

B 「兄弟」 brother の綴りを問う問題である。brather, burather のような綴りの誤りがみられた。基本的な語彙について、正確に書くことのできる力を身に付けたい。

C 「7月」 July の綴りを問う問題である。誤答として、Jury のような綴りの誤りと J を大文字ではなく、j と小文字で書き始める解答もみられた。月の書き始めは大文字とする等の知識や基本的な語彙の定着を図りたい。

D 「星」 stars の綴りを問う問題である。star まではよく書けていたが、複数形の s を書いていない解答が多かった。併せて、ster や stear とする誤りもみられた。文脈の中で基本的な語についての理解とその用法の定着を図りたい。

- 3 まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、基本的な語や文法項目が定着しているかを見ようとしたものである。

問 1 本文の流れに合うように、単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答は riding a bike when I was である。「主語＋動詞＋動名詞」と接続詞 when を用いた重文の文構造を構成する力が求められる。誤答には、when I was riding a bike が多くみられた。

問 2 話の流れをふまえて、本文中の A ～ C のいずれかに、My sister practiced hard, too. という 1 文を補う問題である。第 3 段落の冒頭部分には、Toshiya と妹が自転車の練習をする様子が書かれている。更に、空欄のあとに “So, I tried to help her patiently like my father.” につなげると自然な流れになり、C が正答となる。

問 3 英文の流れに合わせて、空欄にあてはまる適切な英語を選ぶ問題である。it が指すものは “a small, old bike” である。それがどのような状態かを表現している、E が正答となる。

問 4 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。なぜ Toshiya が彼の古い小さな自転車を車庫から出してきたのかが問われており、本文中の “because I wanted my sister to practice with it.” が質問に対する答えとなる。Because he wanted his (sister to practice with it). が正答となる。

問 5 本文の内容と合う英文を選ぶ問題である。第 1 段落に、“At that time, my father helped me patiently.” と書かれていることから、「Toshiya が自転車の練習をしていたとき、父が手伝ってくれた。」を意味する、I が正答となる。

- 4 複数のまとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力を見ようとしたものである。

問 1 英文の流れに合わせて、空欄にあてはまる適切な英語を選ぶ問題である。直後の Phil の発言 “It’s sunny today.” から、天気について会話をしていることがわかる。よって、正答は A となる。正答率が最も高い問題となった。

問 2 本文 1 の内容と合うように、Phil wants Haruka に続く最も適切なものを選び英文を完成させる問題である。本文 1 の 10 行目、11 行目の Haruka の発言 “Your door opens to the inside of the house. The front door of my house opens to the outside.” と Phil の発言 “That’s right.” から、正答は U となる。

- 問3 本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。Harukaの発言にある“*If the front door opens to the outside of the house, the door will not hit the shoes. So, front doors opening to the outside are good for houses in Japan.*”から、正答は「ドアが靴にぶつからないから。」等となる。
- 問4 本文の流れに合うように、単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答は *burned wood to make their houses* である。副詞としての用法の不定詞と「*make* +目的語 +形容詞」で英文を完成させることができる。
- 問5 本文の内容と合う英文を選ぶ問題である。第2段落に、“*Now, many people in those countries have other heating systems in their houses, so they don’t need to use fireplaces in winter. They don’t need to clean their houses in spring, but they still have this custom.*”と書かれていることから、「今、北国の多くの人々は暖炉を使っていないが、“spring cleaning”の習慣はいまだに続いている。」を意味する、ウが正答である。
- 問6 本文の内容と合うように、グラフの空欄にあてはまるものを選ぶ問題である。Haruka の発言、“*North America has a lot of Japanese students, but it doesn’t have the most.*”、“*Well, North America has more students from Japan than Europe has. Actually, foreign countries in Asia have the most Japanese students.*”とあることから、「アジア、北アメリカ、ヨーロッパ」の順に日本人留学生の数が多いということがわかり、正答は ①ウ ②イ ③ア である。比較表現の理解を深めたい。
- 問7 本文④の下線部 “*the best way to learn about foreign cultures is to visit foreign countries.*”について、自分の考えを2文以上の英文で書く問題である。解答の仕方としては正答例にあるように、1文目は *I think so.* 等、下線部の意見への賛否を書き、2文目以降は、*If I study abroad, I can experience people’s everyday life in that country.* 等、その理由が伝わるように書く。誤答としては、1文目の同意表現がうまく使えていないもの、その後の理由もうまく伝えられていないものが多くみられた。やりとりを重視した言語活動を、日頃から心掛ける必要がある。
- 問8 自然な会話になるように空欄に3語以上の英語を書く問題である。空欄のある英文の次の発言から、「それ（スピーチ）は何についてでしたか」と質問をしていることがわかる。そのため、正答は *What was it* 等となる。誤答には、疑問文の形になっていないもの、返答に対する正しい質問の仕方を理解していないものが多くみられた。やりとりの力を育成する必要性が、ここからもみてとれる。

⑤ まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、与えられた〔条件〕に従い、まとまった内容の文章を英語で表現できるかをみようとしたものである。

- 問1 「*Emily*は大阪への父の（ ）についてもっと知りたかった。」という意味になるように、英文の空欄にあてはまる英語を1語、本文中から抜き出す問題である。第1段落に“*I was very interested in his trip there, so I asked him about it.*”とある。thereは大阪を、またitはhis tripを指している。従って、空欄にあてはまる単語は、旅行を表すtripであることがわかる。
- 問2 本文の内容と合うものを選ぶ問題である。本文の5行目に “*He said he stayed in Osaka for five days in August two years ago.*”とあることから、正答はイとなる。
- 問3 与えられた〔条件〕に従い、基本的な語彙や文法を活用して考えを適切に表現する問題である。解答の仕方として、①にはどこに行きたいかということ、正答例のように、*I would like to* で書き始め、①に続く内容として一貫性があるように、②にはそこでどのようなことをしたいかを書くことがポイントである。

誤答としては、*I would like to*の直後に国名を書く等、文の構造が不完全なものが多くみられた。綴りに関するものでは、よく用いる基本的な動詞や名詞に多くの誤りがみられた。また、複数形や大文字・小文字の使い方等でも誤りがみられた。

基本的な語彙や文法事項を含め、適切な表現や構成で文を書けているかに注意を払いたい。また、自分の考えや理由等が読み手に正しく伝わるように、文のつながり等に注意して、一貫性のある文章を書く力を身に付けたい。